

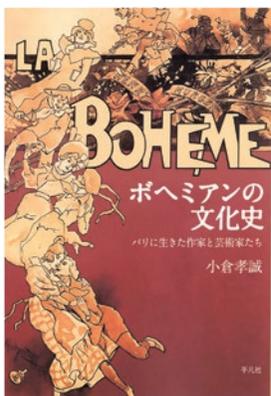
慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

近代フランス文化を彩った 「ボヘミアン」の実態を探る

『ボヘミアンの文化史』

— パリに生きた作家と芸術家たち —

小倉孝誠(名誉教授) 著
平凡社 / 3520円 (2024年1月)



東欧チェコの「ボヘミア」地方出身者を指す言葉だった「ボヘミアン」を、19世紀半ばにフランスの作家アンリ・ミユルジュールが小説『ボヘミアン生活の情景』(オペラ『ラ・ボエーム』の原作)で、社会規範に掣われず自由気ままな放浪生活を送る若者たちを表す言葉と定義した。その後、20世紀にかけて文学者や芸術家などの「ボヘミアン」は社会・文化にとどまらず政治の領域にまで多大な影響を与えた。本書はパリを拠点に活動したボヘミアンたちの言葉と行動を追い、その美学、思想、習俗、そしてボヘミアン文化が日本人を含む外国人に与えた影響について解き明かす。

教職員執筆の最新刊

●川原繁人(言語文化研究所教授、北山陽一環境情報学部特別招聘教授) 作

『絵本 うたうからだのふしぎ』

講談社 / 1870円 (2024年1月)

●平野裕之(名誉教授) 著

『保証・人的担保の論点と解釈』

慶應義塾大学出版会 / 3520円 (2024年1月)

●赤木完爾(名誉教授) ほか編著

『国際安全保障がわかるブックガイド』

慶應義塾大学出版会 / 2200円 (2024年2月)

●柏谷祐子(法学部教授) ほか編著

『アジアの独裁と「建国の父」—英雄像の形成とゆらぎ』

彩流社 / 3080円 (2024年2月)

●徳永聡子(文学部教授) 編

『神・自然・人間の時間—古代・中近世のときを見つめて』

慶應義塾大学出版会 / 3850円 (2024年3月)

●錦田愛子(法学部教授) 著

『パレスチナ／イスラエルを読み解く』

えにし書房 / 2200円 (2024年3月)



慶應義塾この一冊

『福翁夢中伝』(上・下)

荒俣宏(1970年法学部卒業) 著
早川書房 / 各1980円
(2023年12月)



明治31年に病に倒れながらも生還した福澤が「今ならばむかしの自分の愚かしさを批判できる」と気づいて、新たな『福翁自伝』を語る……そのような架空の設定のもと、生誕から「死後」までを、「わがはい」の一人称で語る趣向の評伝小説だ。生涯を振り返る現在の福澤に各時代の福澤や著者が、疑問を投げかけるSF的技法も導入。塾員でもある著者は、あとがきで「この大学に創られた人間」である理由がひよっとしたら明確になるのではないかと期待」して膨大な資料をもとに5年がかりで執筆したと述懐している。